

# 団体長・暑中あいさつ

## がんばれニッポン丸!

日本塗装機械工業会

会長 木下 真生



暑中お見舞い申し上げます。ここ数年はゲリラ豪雨、雷雨が日本各地を襲い、北から南まで各地でがけ崩れや洪水などの被害が多発しております。またやっと梅雨が明けたと思うと今度は連日35度越えの猛暑。冬の寒さもたええます。この暑さにもまいりません。

さて気候の方はそれとして、最も重要なのは世の中

の状況です。お隣の2カ国の日本に向けての対応は相変わらずで取りつく島もないという感じ。いたずらに嫌日を煽り立てているようなところもあり、困ったものですね。ここは所謂「大人の対応」で凌いでいくということしかないのですが、あまり度が過ぎてくると日本の中に「軍備増強をすべき」的なムードが高まってくる恐れもありそれも要警戒事項でしょう。

が有利か”などという記事も目立つようになってきています。そこに「集団自衛権」の問題も重なってくるというのか。難しい問題です。やはり我々はその過去の大きな犠牲を出した戦争という悲劇は絶対に繰り返してはならないということを大原則に物事にあたっていくべきなのでしょう。

外交の方は大きな問題を賢明な形で捌いていかねばならないということですが、幸いなことに国内政治と経済の方は「アベノミクス」の3本の矢は順調的に射たようで、特に最初の2本の矢、金融、財政の方は株価の押し上げ、円安水準の安定的定着を実現してきています。また第3の矢である民間の力の活性化による成長戦略（これが最も難問と言われてきています

が）、このところ毎日のように様々な政策提案がなされてきており、これらは今まで「やるべきであった」にもかかわらずやってこなかったようないわゆる規制がんじがらめの不活性化政策からの脱却、という印象を受けるような柔軟かつ実利的な政策提案がなされてきているということ、期待が持てる、と感じています。一言で言うと「安倍さん、やるじゃん!」ということでしょうか。やっとな政治のための政策、ではなく国民目線に基づいた国民のための政治、政策、が行われるということが実感できるところになってきた、ということでしょうか。

歴史とともにここまで来た日本丸を沈没させる訳にはいかなないので、ありとあらゆる知恵と努力と勇気でどのように難しい状況でも乗り切っていくしかありません。暑い夏ですがいずれ涼しい風が立ち始め、秋が訪れ、また冬が来て、と季節は巡るでしょう。我々にとって最も大事なことはやはり日々を有意義に楽しく前向きに生きることであると思います。仕事はもちろん薬ではありませんが、仕事に誇りを持ち、日々ちょっとずつでも先進をし、特に我々CEMAに関連する皆さんは「FINISHING(すべてのもの作りの最終仕上げ)を担う重要産業を受け持っているのだ」という自覚を持って頑張っていっていただきたいと思ひます。